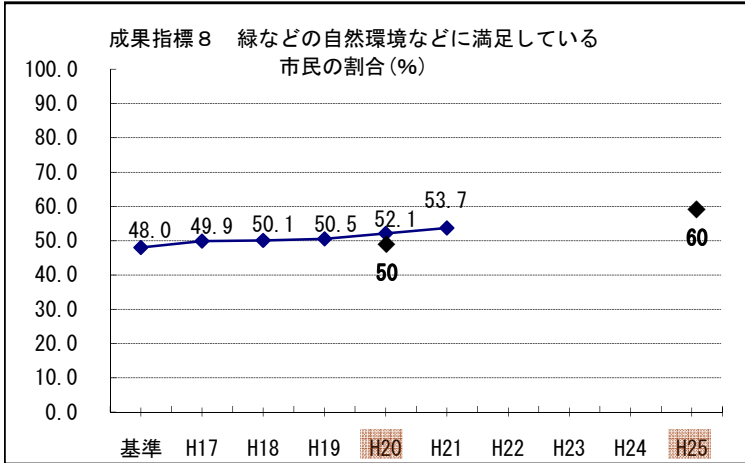


柱	2 生活環境
分野	E 自然
ビジョン	次世代につなげる生命（いのち）ある自然環境の保全

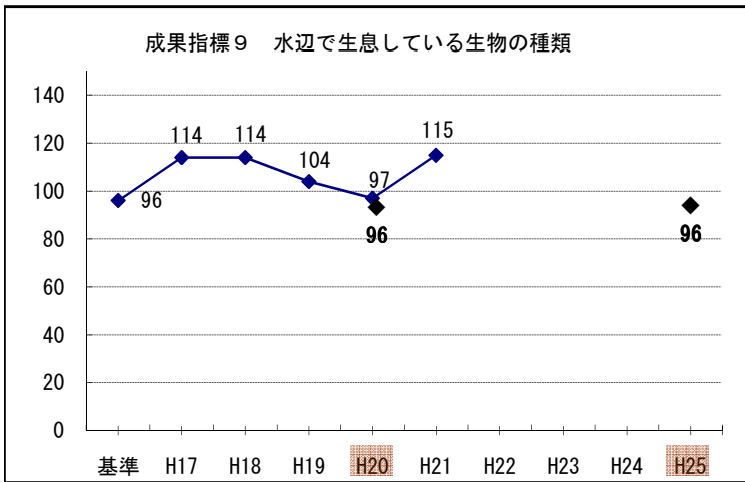


主な事業
 保全地区・保存樹木の指定
 松くい虫防除事業
 緑の基本計画等策定事業

計画通りに成果が上がっているか

目標達成
 順調
 順調でない

成果指標の分析
 緑などの自然環境に満足している市民の割合は順調である。また、年齢別では20歳から39歳までの世代の数値が高くなっており、子供と一緒に自然に親しむ機会が多いと思われる。学区別では船島の数値が高くなっており、学校を通じた地域活動が活発で関心度も高いものと思われる。また、男女別では、男性より女性の方が高い数値になっており自然に親しむ機会が多いものと思われる。



主な事業
 河川ため池水質浄化事業
 上野新川ふるさとの水辺再生基本構想
 東海市エコスクール

計画通りに成果が上がっているか

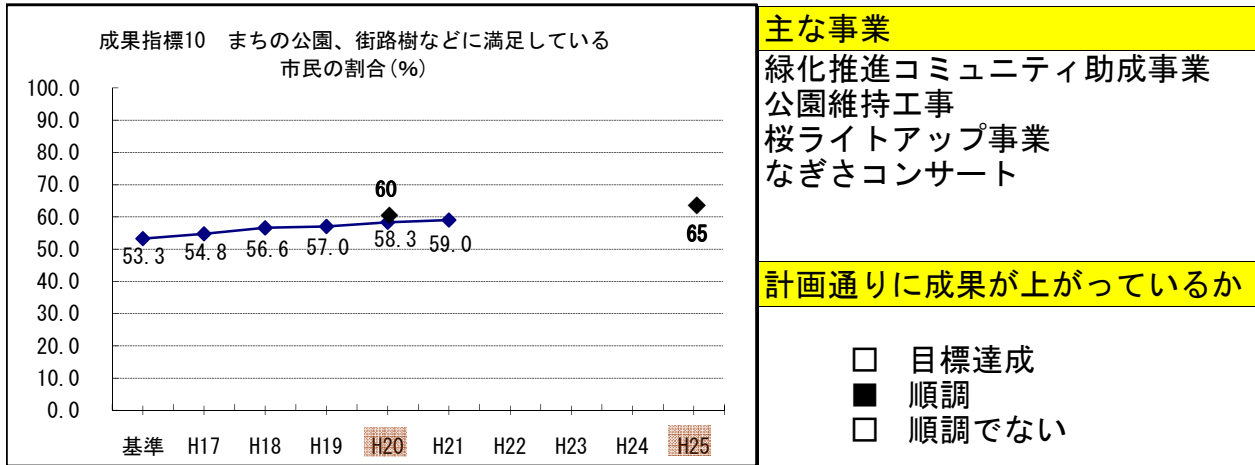
目標達成
 順調
 順調でない

成果指標の分析
 指標としては昨年度より増加しているが、数よりも内容に留意すべき指標である。平成21年度は新池で準絶滅危惧種のイチヨウウキゴケ、大池公園で絶滅危惧種のハヤブサが確認されており、自然環境が周辺と比較して良好である可能性がある。

成果が向上する余地（可能性）は？ 大 中 小

成果向上のためにすべきこと、次年度への取り組み方針
 緑の基本計画に基づき加木屋緑地の整備・保全を進めるほか、保全・保存樹木未登録者の登録推奨、緑の保全のための調査研究等を進めていく。
 また、エコスクール等において親子で自然と触れ合う機会を増やし、身近な自然について市民が意識する事で、自然環境の保全につなげていく。

柱	2 生活環境
分野	F 公園・緑地・景観
ビジョン	花と緑あふれる心安らぐまちづくり



成果指標の分析

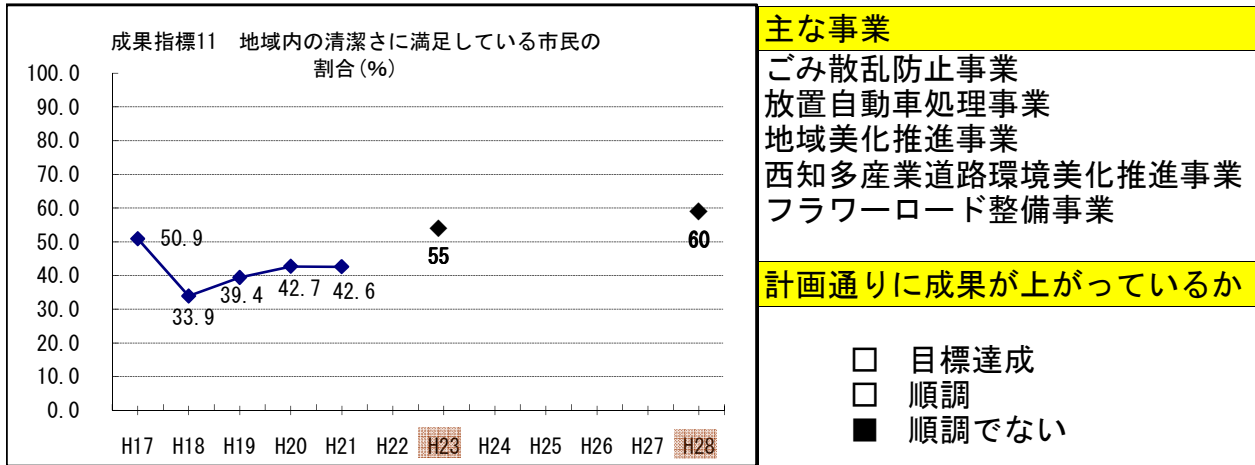
満足度は、僅かではあるが年々増加傾向にあり順調に推移しており、めざそう値に近づいている状況である。年齢別では16～39歳でめざそう値を上回っており、あとの年代はめざそう値に迫っている。男女別では、男性より女性の方が6%高い数値になっている。これは子どもと一緒に利用する機会が多いため公園等を利用して満足度を高めているものと思われる。

成果が向上する余地(可能性)は？ 大 中 小

成果向上のためにすべきこと、次年度への取り組み方針

引き続き、公園や環境保全林の整備を進めるとともに、宅地開発業者等に緑地の保全・確保に努めてもらう。また、公園整備においては、地域住民の意見を反映したワークショップ方式での公園づくりを進めていくことにより成果向上の余地はありと考えている。

柱	2 生活環境
分野	G 環境美化
ビジョン	道路も公園も自分の庭 めざそうポイ捨てゼロのまち



成果指標の分析

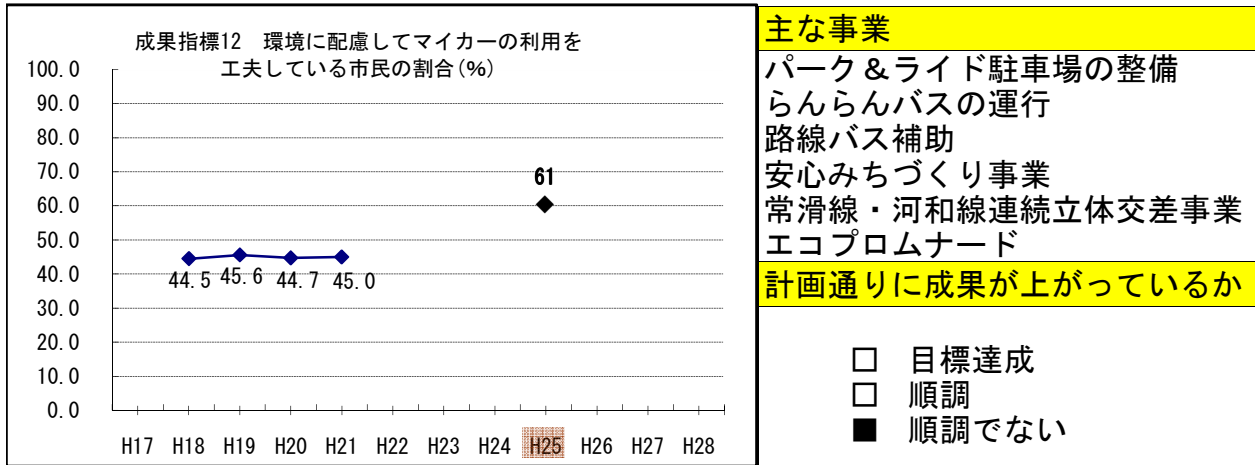
地域内の清潔さに満足している市民の割合は、増加傾向にあったが中間目標に及ばない数値のままほぼ横ばいへと変化した。
 ただし、主要幹線道路におけるごみの回収量は減少傾向にあり、市内にポイ捨てされるごみの量と市民の意識が必ずしも一致していない事が読み取れる。

成果が向上する余地(可能性)は？ 大 中 小

成果向上のためにすべきこと、次年度への取り組み方針

平成22年度から市内一斉清掃が始まったため、この効果を注意深く見守る必要がある。
 ごみのポイ捨ては個人のモラルに依存する部分が多いため、個人を対象とした啓発を引き続き実施すると共に、「清潔さ」とポイ捨ての関連性、清潔では無いと感じる場所の洗い出しなどについて検討しなければならない。

柱	2 生活環境
分野	H 交通
ビジョン	環境に配慮した安心便利な交通システムの整備



成果指標の分析

ほぼ前年並である。工夫の内容として多いものは、徒歩や自転車を利用してマイカーの使用を控えている人の割合52.6%、アイドリングストップをしている人の割合35.0%であるが、前年度とほとんど変化していない。

成果が向上する余地（可能性）は？ 大 中 小

成果向上のためにすべきこと、次年度への取り組み方針

エコプロムナードや大田川駅のパーク＆ライドの整備により成果向上の余地はある。また、エコスクール事業や啓発事業の内容も見直し今後充実させていきたい。